

かごつま家族ねっと



第10号

発行人 鹿児島県知的障害者施設家族会連合会

事務局 〒890-0032

鹿児島市西陵7丁目30番3号

川畑岩夫宅

TEL・FAX 099-281-9548

平成29年度新体制スタート ～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会（略称鹿施連）～



6月2日（金）、ハートピアかごしまにて、平成29年度評議員会（総会）が開催されました。

まず始めに、鹿施連会長 兼廣倫生より開会の挨拶があり、改正福祉法やまだ記憶に新しい障害者施設「津久井やまゆり園」（神奈川県相模原市）事件のその後の関係者の話にふれ、二度とあのような残虐な事件を起こさぬよう、全ての偏見や差別、敵意や嫌悪感を乗り越え、障害を持った人もそうでない人も一人の人として尊ばれる社会を創ることの大切さを訴えました。

続いて、来賓として「鹿児島県知的障害者福祉協議会」会長

水流純大氏と「鹿児島県手をつなぐ育成会」理事長 別府則夫氏の挨拶があり、知的障害者の諸団体が車の両輪のごとく手を携えて運動することの大切さ、知的障害者に係る法制度がどんどん変わる中で、利用者に対してより良い支援へとつなげていくにはどうしたらよいか等について話され、障害者運動に携わる一員としての思い・願いを共有できました。

議事に入り、平成28年度事業報告・収支決算報告・監査報告が報告審議され、原案通り全員一致で承認されました。続いて、平成29年度の事業計画（案）・予算（案）、運動の基本方針や具体的な取り組みが提案され、質疑応答・討議後、全員一致で承認されました。

本年度は役員改選の年であり、29～30年度の役員体制が会長により提示され、承認されました。それに伴い、役員を退く方や役職等の変更もあり、今までの労をねぎらい盛大な拍手が送られました。

最後に、出席者全員で今後の活動の充実・発展を確認しあい、評議員会（総会）の幕を閉じました。

鹿施連の具体的な取り組み



（1）組織の点検と強化

- ① 執行部体制の確立
- ② 支部執行部体制の確立
- ③ 各家族会単位の情報の交換、連携の強化

（2）研修活動の推進

- ① 研修会の開催
- ② 家族会並びに施設職員研修会の開催（鹿児島県知的障害者福祉協議会との共催）
- ③ 支部研修会の開催

（3）啓発活動の推進

- ① 広報誌「かごつま家族ねっと」の年2回発行
- ② 鹿施連の存在や活動の紹介

（4）全施連、九州協議会との連携の深化

- ① 全施連理事会・総会への参加
- ②九州協議会への参加
- ③ 全国（秋田）大会への参加

（5）関連団体との連携の推進

- ① 鹿児島県知的障害者福祉協議会との連携
- ② 鹿児島県手をつなぐ育成会との連携

平成29・30年度役員



～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会理事～ 6月2日現在

	支 部 名	役 職	氏 名	施 設 名
1	鹿児島市地区	支部長 副支部長 副支部長	兼廣 倫生 岡元 鐵哉 川口 正一	あおいとり サポート「なごみ」 ゆうかり学園
2	南薩摩地区	支部長 副支部長	小城 守 宮下 設郎	みさかえ学園 ふじみの里
3	北薩摩地区	支部長 副支部長	久保 正和 山内 茂幸	宮之城福祉園 宮之城福祉園
4	大隅地区	支部長 副支部長	宮園 利郎 竹下 鈴代	和光学園 和光学園
5	奄美・種子屋久地区	支部長 副支部長	松下 正治 橋田 隆治	あかつき学園 愛の浜園

～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会役員～

	役 職 名	氏 名	施 設 名	支 部 名
1	会 長	兼廣 倫生	あおいとり	鹿児島市地区
2	副 会 長	小城 守	みさかえ学園	南薩摩地区
3	副 会 長	岡元 鐵哉	サポートなごみ	鹿児島市地区
4	会 計	内村 浩子	セルフ鹿児島	鹿児島市地区
5	監 事	中村 俊久	しょうぶ学園	鹿児島市地区
6	監 事	前田 隆幸	セルフいしき	鹿児島市地区

*	事務局長	川畑 岩夫	あさひが丘学園	鹿児島市地区
---	------	-------	---------	--------

* 事務局長は会長からの委嘱になります。

新しい事務局 鹿児島市西陵7丁目30番3号 TEL・FAX 099(281)9548

平成29年度の事業計画の予定 (年5回の理事会・年2回発行の会報については割愛しました。)

年 月 日	事 業 内 容	備 考
29. 6. 13 (火) ～14 (水)	全国知的障害者施設家族会連合会 社員総会 (開催地：大阪市新大阪ガーデンパレス)	参加者2名
29. 7. 4 (火) ～5 (水)	全施連九州協議会 (開催地：長崎県諫早市)	参加者3名
29. 10. 3 (火) ～4 (水)	第13回全国知的障害者施設家族会連合会 全国大会(開催地：秋田市秋田キャッスルホテル)	開催テーマ 「新しい生活の場を語ろう」
29. 11. 10 (金)	平成29年度研修会(ハートピアかごしま) (ハートピアかごしま)	テーマ 知的障害者の家族にと って、今、何が心配か
30. 1. 13 (土) ～14 (日)	家族並びに施設職員研修会(共催) (霧島市 京セラホテル)	発表家族会(鹿児島市地区・大隅 地区支部)

全施連社員総会

～29年度の方針定まる～

平成29年6月13日（火）～14日（水）の両日、一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会社員総会が大阪市で開催されました。

第1日目は冒頭に、全施連理事長 由岐透氏の挨拶があり、知的障害者を取り巻く状況について、次の2点の報告がありました。

- ① 全施連は「障害福祉サービス等報酬改定検討チームにおいて」47の障害者団体に含まれていなかったため、1団体15分のヒアリングには参加できなかったが、文書で意見を出してくださいとのことで今後の見通しは明るい。
- ② 介護保険法改定により負担増・給付削減が一層深まってきた。「地域共生社会」の実現という美名で、高齢者、障害者など地域の問題を“我が事”として福祉サービスを住民や地域に“丸ごと”肩代わりさせることに他ならない。公的な責任を地域に“丸投げ”するものである。

続いて議案の審議に入り、障害福祉の情勢に係わって

- 全施連の運動により施設入所者の地域生活移行の成果目標を下方修正させた。
- 福祉法人改革で社会福祉法人が営利法人化する可能性がある。
- 我が事・丸ごと政策は着実に進められているが現実との矛盾はさけられない。

等々の報告がありそれについて意見が出されました。

また、活動の成果として、行政や議会への陳情と意見交換がなされたことや、友誼団体との連携が強化されたこと、全施連内での学習会の活発化、事業部が新設され財政面での寄与などがあげられました。

反省点としては、24時間切れ目のない快適な支援施設の新設請願が思うほど成果があげられなかったことや新しい形の支援施設の在り方に関する提言Ⅱが不十分だったこと、組織の拡大と強化面で守りの姿勢になってしまったことなどに言及がありました。

最後に、全施連の組織の在り方として、事務局体制に課題がある現状を踏まえ、適切な負担軽減を図りそれを執行部で補う視点から、以下の4点が提起されました。

- ① 現実的具体的政策提言ができる組織編制
- ② 運動体としての活動を支える財政的に安定感のある組織
- ③ 全員参加で責任を分担し協働する組織
- ④ 政党に拘わらず政治家と協働する組織



なお、全施連の組織図についても、今後検討を深めることにもなりました。

29年度～30年度の役員の改正がありました。新たな副理事長には、政策・運動部担当として、関東ブロックより大矢武久氏、広報・情報担当として、九州ブロックより渡邊民雄氏が選出されました。

第2日目は、1日目に十分審議できなかったこととして、29年度の事業計画案について、新たに『介護保険優先の原則の撤廃』、『支援区分の廃止』が追加され、原案が強化されました。

最後に、理事研修として、副理事長の南守氏より「30年度の見直しに関する直近の課題」について講演がありました。いくつかを列挙します。

I. 全施連の存在意義

全施連の活動がなければ、全国の入所施設は存続していなかったのではないだろうか。国は入所者数の削減目標や地域生活移行者数の目標が達成されず修正を余儀なくされている。

II. 高齢障害者と介護保険の関係

施設入所者は介護保険法で当分の間適用外となっているが、その特例が削除される可能性もある。

III. 施設職員の資質向上のために

施設内での虐待や拘束問題について、施設職員は、めったに起こらない課題に対応するために日々のトレーニングが必要である。また、日常的な課題に対する基本的なトレーニングも見直しや改善が必要である。

IV. 利用契約書の扱い上の留意点

契約書を確実に読み、契約内容を把握することが大切です。特に、自動更新の問題点と利用契約解除の項目に留意する。施設からの退所が増加しているという事実もある。

V. 知的障害者が生きていくには支援が必要

家族の望む支援を可能にするためには、現在の計数上で算出された職員数でいいのだろうか。「家族会としてしっかり学習し研修を積むことが重要である。」と指摘されました。



一般社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会

第13回全国大会 in 秋田 平成29年10月3日(火)～4日(水)

開催テーマ 「新しい生活の場を語ろう」 会場 秋田キャッスルホテル

全施連九州協議会開催 ～九州から大きなうねりを～

平成29年7月4日(火)～5日(水)に長崎県諫早市で開催されました。「知的障害者・児の安心、安全な暮らしを目指して活動する」という目的を実現すべく、情報や意見の交換、今後の具体的な方針について活発な論議がなされました。なお鹿施連からは兼廣会長など3名が参加しました。

まず始めに、各県から活動報告がなされました。九州協議会の在り方についても意見が出され、真摯な話し合いがなされました。

大分県からは、会則を定め、会費などを決めたらどうだろうかという提案がありましたが、今後継続して審議することとなりました。

熊本県からは、全施連の組織強化に伴って、①研修 ②組織・財政 ③政策・運動 ④広報・情報の4部会が発足し、九州ブロックの渡邊氏が広報・情報の担当になったこと。今回の再編を九州協議会ではどう生かすかという提起、また常任幹事として、福岡県連の八木氏が推薦されたことの確認がありました。

PT(プロジェクトチームの略)会議「新しい生活施設のあり方に関する提言パートII」を円滑に進めるための500円カンパをどのように扱うかについては、各県で異論があり、今年度末に結論を出したらいいのではということになりました。

「九州協議会は予算を持たないがどうすべきか。」との意見も出されました。これについては、全施連九州ブロック代表の渡邊氏が原案を出すということになりました。

今後の全施連の全国大会の開催地は、H29年・秋田、30年・兵庫、31年・高知、32年・熊本となっているが、鹿児島県での開催は、その2～3年後になる可能性があるということが話題になりました。

2日目は、長崎県のセントピア施設長吉岡氏、宮崎県の白濱学園事務長山口氏の両名が、施設の実情について報告をしてくださいました。(概略)

- 利用者の高齢化・重度化が進み、24時間の支援体制が必要である。
- 保護者や家族は施設に対して何も言えていないのではないかと。対等とは言わなくても言うべき時は言うことが大切だ。
- 施設職員のスキルアップが必要である。家族会がチェック機能を発揮して職員を教育している面がある。
- 月1回は保護者会で、色々なイベントをやって貰い施設に足を運んでもらっている。

九州から、大きなうねりを起こす大きな一歩を踏み出す有意義な会議となりました。

全国知的障害者施設家族会連合会の活動の様子は、全施連ホームページ <http://zensiren.web.fc.com/> で調べることができます。

「全施連ニュース」や各県発行の「会報」、今までの「かごつま家族ねっと」なども紹介されています。

